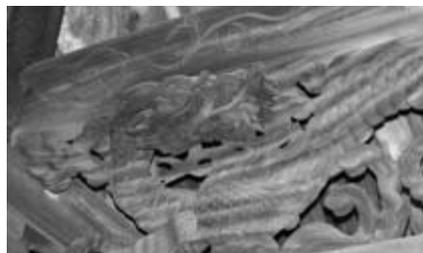


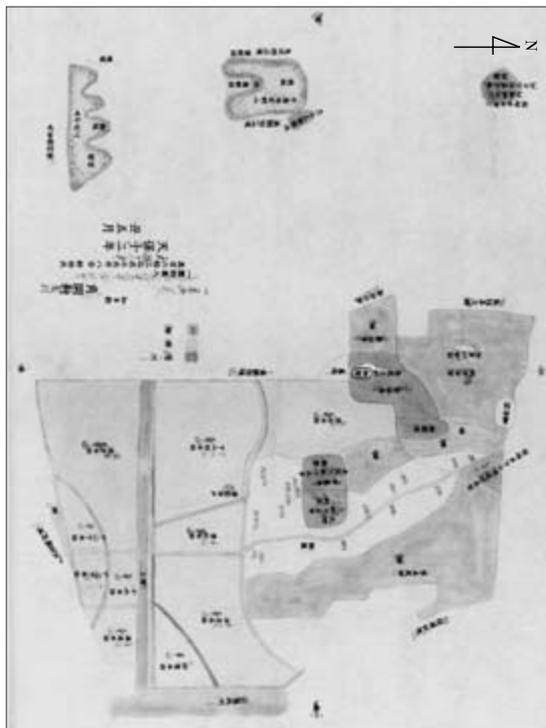
シリーズ

阿久比を歩く ②



雲谷寺山門の彫刻の龍

今回は角岡村（現在の大字椋岡地区西部）絵図を見ながらぶらり旅に出かけた。
最初に雲谷寺を訪れた。山門の上から龍が私たちをのぞいている。門の正面部分にある彫刻の龍である。寺の山号が「龍臥山」。龍と縁深いようだ。
住職から龍にまつわる話を聞く。室町時代、多くの水墨画を描いた画僧、雪舟がこの地を訪れた。雨が降



角岡村絵図(阿久比町誌資料編1村絵図解説書から)

あぐいぶらり旅 村絵図を歩く(角岡村)

らず農作物が育たないと村人が困っている、雪舟は衣ヶ池（現在の丸山公園付近）のほとりで雨乞いを始める。願いはかない雨が降り出す。池の中から昇天する龍神を見て雪舟は「龍之画」を描いたと伝わる。
雲谷寺には、この画が寺宝として残る。「すごい形相で天に昇っていく龍の姿が描かれていますよ。日照りの時に出してコップいっぱい水を張り、七日間祈願すると必ず雨が降ったので、雨乞いの龍」と言われています」と住職が話してくれた。
広い境内を散策する。今日は五月の第二日曜日で「母の日」。六地藏にはピンク色のカーネーションが供えられている。そのすぐそばには池がある。龍ではなくカメが長い首を伸ばしていた。
次に平泉寺と氏神と記された場所に向かう。

平泉寺は知多四国第十六番札所。源頼朝が野間大坊（美浜町）に父義朝の墓参りの帰途に訪れ、中秋の名月を眺めた場所である。県指定文化

財の不動明王立像などの仏像でも有名だ。
線香のにおいが境内に広がっている。参拝者とあいさつを交わし、平泉寺を後にして氏神を探した。
細道のプロックに腰掛け、会話を
する高齢の男女に尋ねると、平泉寺東の民家付近を指差して「氏神はこの辺りにあったと聞くよ。わしもまだ若いからそんな昔のことは知らないなあ」と冗談を言いながらおじいさんが応えてくれた。（現在は椋岡地区の八幡神社に移転。）
地図を南下して唐松の井戸に着いた。田んぼの脇に四方を柵と石で囲まれた古井戸が残る。
この井戸は慈覚大師円仁の祈とうにより水が湧き出し、農民を日照りから助けたと伝えられる。緑色に濁った水の表面をアメンボウが飛び跳ねていた。
同じ村の中に雨にまつわる伝説が二つあった。村人が昔から、水の確保に大変苦労していたことが伝わってきた。

唐松の井戸



唐松の井戸